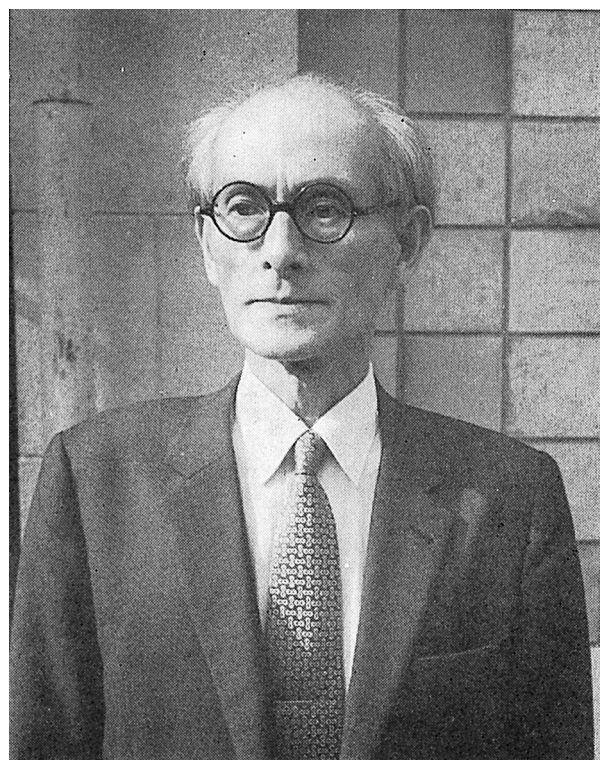




清水盛光

清水盛光教授記念号によせて

関西学院大学社会学部長

萬 成 博

清水先生は昭和48年3月に停年によって関西学院大学をご退職になる。京都大学人文科学研究
所教授を退職されたのちに、関西学院大学社会学部教授となられたのは、昭和43年4月からであ
る。在職の5年間は早くすぎってしまったが、まさに疾風怒濤の時期であった。社会学部の教
育と研究が学院を解体しようとする勢力によって風前の灯火の状態となった期間でもあった。こ
の間をかえりみると先生は社会学部の研究、教育、学校行政の問題にたいして重要な支柱となら
れていた。大学問題にたいして先生はけっして悲憤硬概されたり、声を大にして意見を表明され
ることはなかったが、研究者のあり方とまた学部の進むべき方向について行動をもって範を示さ
れたと思う。ここに先生におくる記念号を出版するにあたって、先生のイメージを記しておく。

先生は昭和10年代に満鉄調査部員として、中国社会と家族の構造についての一連の研究成果を
公刊して、日本の社会学会において実証研究の分野でパイオニアの役を演ぜられた。当時はほ
とんどの日本の社会学者が欧米社会学説の研究にとどまっていた段階に、中国社会の構造を社会
学的に実証分析した。今でもこれらの著作は内外の中国研究家のあいだで中国社会についての基
礎的文獻とされている。関西学院大学にこられたのちは、京都大学時代に手掛けられた集団の理
論研究を完成された。昭和46年に「集団の一般理論」(岩波書店)の大著を世にとった。この書は
集団の本質、構造と機能についての基礎的事実と概念を分析し、体系化した社会学理論である。
この書の価値は理論社会学にたいする重要な寄与ばかりではない。さらに特筆されなければなら
ない。すなわち日本の大学を覆った紛争によって、本格的な社会学研究が中断されたなかで、集
団の理論を真正面から取扱う著作が公刊されたことである。日本の社会学会にたいする大いなる
貢献であった。

先生は自己の研究に没倒され、真の学究の在り方についてわれわれに範を示されたが、このこ
とはけっして教育や学生指導をおろそかにすることにならなかった。大学院の学生にたいするゼ
ミナールや講義ばかりでなく、学部生には社会学原論とゼミナールを担当された。つねに多くの
学生を前に透徹した講義を展開して、学生に社会学理論への関心を導いた。大学院学生には理論
的思考を発展させるうえに大きな影響をあたえたと思われる。さらに大学が混乱した年には大学
評議員に選出され、また改革のための諸委員を勤められた。先生の教育は関学における次代の社
会学徒の中に種生えつつあると思われる。

昭和48年1月22日に多くの学生を前に最終講義をされ、感銘深い提言をなされた。「いわゆる
第三社会について」という題目のもとに、旧い大学から新しい大学社会への改革にあたって、共
同社会や利益・目的社会にかわり、協同価値を追求する大学社会の理念が確立されなければなら
ないが、これまでの社会哲学者や社会学者の社会構造の概念の中には、第三社会についての具体
的構図、とくにそれを実現するための手段についての明確な考察がなされていないことを詳細に
示され、これからの社会学研究者が、これらの問題と取組まなければならないことを主張された。

われわれは清水先生を教授の一員としてもつことができたことを心から誇りと思う。さいごに
先生が更に重要な研究分野をひらかれたことを期待すると共に、先生が今後もわれわれ社会学部
の研究と教育にご指導とご援助を下さるようお願いする次第である。

昭和48年2月1日